

C型慢性肝炎に対するインターフェロン単独療法の治療成績

釈迦堂 敏 渡邊 洋 早田 哲郎 岩田 郁
入江 真 喜多村祐次 竹山 康章 小山 泰寛
中根 英敏 森原 大輔 田中 崇 横山 昌典
前田 和弘 青柳 邦彦 向坂彰太郎

福岡大学医学部第三内科

要旨：1992年より2005年5月までに福岡大学第三内科および関連施設で、C型慢性肝炎に対するインターフェロン単独療法を受けた症例は544例であり、ウイルス持続陰性となった著効率（SVR）は37.0%（201例）であった。年齢階層別 SVR は高齢ほど有意に低下し、肝線維化別 SVR は線維化進行例ほど有意に低下していた。セロタイプとウイルス量が判明している379例の検討では、SVR はセロタイプ1、高ウイルス群で11.1%、低ウイルス群で62.5%、セロタイプ2、高ウイルス群40.0%、低ウイルス群68.6%であった。C型慢性肝炎に対するインターフェロン単独療法ではセロタイプ1、高ウイルス群が難治性であったが、若年で肝線維化が進行していない症例では高いSVR が期待されるため、積極的に治療を勧める必要があると考えられた。

キーワード：C型慢性肝炎，インターフェロン，ウイルス学的著効